

古賀千一郎（ヒコカチ）郷土史家。明治十（一八七五）年長崎縣長島町生れ。昭和（一九二九）年九月六日没（八五六一九歳）。長崎市立商業學校在学中、菅沼貞風著『大日本商業史』附平戸貿易史（志）（明治二十五年十月七日菅沼重平刊、東邦協會）を讀み、長崎の對外關係史研究を志す。

明治三十四年東京外國語學校卒業後、廣島中學校の教鞭を執る（一三二一年、初志黙（ヒコカチ）辭して歸郷、内外の長崎史料の本格的に取組む。大正八年雜誌『長崎評論』創刊、更に長崎史談會を興した。翌年出島を中心とする對黨研究の對シオランダのら教鞭。

著書の『長崎と海外文化』（永山時英合著、大正十五年四月）『長崎市役所論刊』（徳川時代に於ける長崎の英語研究）（昭和二十二年七月）『五日福岡・九州書房』等。

